

教育厚生常任委員会

◇視察日 令和元年10月28日
 ◇視察先 愛媛県四国中央市
 新宮小中学校

◇調査事項
 小規模特認校事業

◇調査結果

①特認校になるまでの経過

平成16年に2市1町1村が合併し四国中央市となった。少子化や過疎化で学校運営

は難しくなったが、「新宮に学校を残したい」との首長の強い思いが開校につながる。

平成19年度から、教育特区申請により新宮中学校での小中一貫教育がスタートした。

平成29年度に解体し、建設費13億円で新宮小中学校を新築した。

通学は、校区外の児童生徒は全員スクールタクシーでの送迎で、約1時間以内で通学可能な範囲としている。

②児童生徒数
 今年度小学生44人、中学生17人の61人。将来的には各学年10人を目指している。入校

は申請後面接し、合否判定を行う。
 ③良かった点
 教育活動に幅と深まりができた。少人数で行き届いた教育が行え、部活で団体が組めるようになった。
 ④課題
 地元の保護者と町外の保護者との思いが噛み合わないことがある。PTA会費や教育支援費等は、他校より保護者負担が多い。
 ⑤所感
 大栃小・中学校の児童生徒が減少しており、今回の小規模特認校について、当市でも検討しては。



森林・林業・林産業活性化推進香美市議会議員連盟視察

間伐で保水力が安定

◇視察日 令和元年11月29日

◇視察場所

香美郡殖林組合所有林
 (西又・河野林道)

◇調査内容

香美郡殖林組合(南国市・香南市・香美市)は、共同で郡有林を管理している。間伐施業の委託先の香美森林組合の案内で調査した。

作業道や列状間伐された郡有林が整備されていた。

間伐することによって、山に日光が入り下草が生え、山が健全に管理される。このことで、安定した水の供給につながっている。

今後、H型架線集材技術を活用した高効率の搬出間伐を計画している。

*列状間伐は定量伐採の一部で、高性能林業機械によって列状に間伐する方法。

*H型架線集材技術は架線をH型に索張りをして大面積集材が可能で、生産性が向上するが、地形による制限や、大量の資材が不可欠などデメリットもある。



©やなせたかし
 森のモリくん